



相ノ木っ子だより

令和2年度
学校だより
4月号
上市町立相ノ木小学校



人と人とのつながりによって・・・



「おはようございます」

子供たちが挨拶隊に立つことやわたしとのハイタッチは自粛していますが、久しぶりに児童玄関前で子供たちの挨拶の声が響きました。長期の臨時休業から春休みへと、先生方や友達と会えない日が続き、学校再開を待ちわびていた子供たち。校内で聞こえてくる元気でうれしそうな歓声が、学校や友達に対する子供たちの思い、気持ちを表しています。学校で友達と過ごすという、これまで当たり前だったことが、どれだけ自分にとって大切で、重要であったかを感じているのではないのでしょうか。とは言え、そんな登校日もほんの数日のこと、すぐに臨時休業となってしまいました。それでも、始業式や入学式を行うことができ、全校みんなで令和2年度のスタートをきりました。

これからが新型コロナウイルスとの戦いの本番です。マスクの着用や手洗いの徹底を欠かさない、不要不急の外出を控える、「三密」に身を置かないなど、わたしたち一人一人が、細心の注意を払いながら生活し続けていく必要があります。安心して生活できるようになるのはずいぶん先になるかもしれませんが、自分のため、周りの人のため、そして日本、世界のために、みんなで我慢、辛抱をしていきましょう。

それにしても、新型コロナウイルス感染という大きな禍に巻き込まれ、不安や困惑といった思いはもちろん、自分の中に存在する心の在り様について考えさせられます。まず、他者に対する排他的な心理。富山県はしばらく感染者が出ていなかったせいもありますが、「持ち込んでくれるなよ」という他県や外部を排除する気持ちがどうしても起こってしまいます。感染が出た際、「何てことをしてくれたんだ」といった思いも抱きました。感染者は被害者であるはずが、その行動に関して批判的になってしまいます。また、自己中心的な思い。「自分は大丈夫」といった過信や、経済的な損失・活動の停滞等と自分たちの生命を天秤にかけながら「どちらも何とかならないか」と都合のよいように考えてしまう心理です。つくづく自分の本性はおろかで、弱いものだと感じます。そんな自分を認めた上で、理性的にこの禍に立ち向かっていかなければなりません。そして、今の状況では、自分の行動が必要なのか、危険を伴わないかをしっかりと判断しなければなりませんし、どのような影響を周りに与えるのかを見通さなければなりません。

また、今回のことで、人と人とのつながりについても考えさせられました。つながりがあることは人間にとってとても大事なことですし、それがあからこそ寂しさや孤独にならずにいられます。しかし、今回はそのつながりによって感染が拡大され、生命の危機、恐怖が起こっています。皮肉なものです。でも、一人ではこのウイルス感染には戦えません。身体的、距離的には密接につながれない現状ではありますが、「自分や家族のために感染しない」だけでなく、「知り合いはもちろん、顔も知らない誰かのためにも感染しない」という、一人一人が信頼し合い、互いのことを考える必要があります。大きな禍に遭遇したこの現状に、みんなで心と力を合わせ、人と人とのつながりによって対抗していきましょう。

最後に、ラグビーの選手・監督として活躍された松尾雄治さんの言葉です。

一人一人が自分の仕事をきちとこなすこと。

この個人プレーの連携が、真のチームプレーなのだ。



団体スポーツのチームプレーについて語ったものですが、今回のウイルス感染を終息させていくために大事なことであると思います。自分のできることをきちとこなしていくことで、安心できる生活をみんなでとりもどしましょう。毎朝子供たちとハイタッチができるようになりますように……。今のわたしの切なる願いです。



自分を表現する



「自分を表現していきましょう」

わたしがこの相ノ木っ子だよりを作成するのも3年目を迎えることとなりました。その時々を感じたことを思いつくままに書き綴っておりますが、保護者の皆さんももう既に飽きてきたことと思います。しかし、「子供たちや保護者の方々の一助に」という願いを込めてこれからも掲載していきますので、どうぞお付き合いの程よろしくをお願いします。

さて、始業式でわたしは、今年度の目当てとして、子供たちに冒頭の言葉を投げかけました。これまでわたしが年度始めに子供たちに提示した目当ては、1年目「自分を大切にする（自分の命を大事にすることはもちろん、自分のために、相手を思いやり、明るく過ごし、よさを伸ばして、体を鍛え、友達と力を合わせて、努力を積み重ねていきましょう）」、2年目「自分の心をみがく（強い心、美しい心、温かい心等の自分の心や感性をみがき、自分の頭で考え、自分の体で行動できるようになりましょう）」でした。

そして、3年目となる今年度は、子供たちにこれまで大切にしてきた自分の言動、みがいてきた自分の心をどんどん表現していける相ノ木っ子であってほしいと思いました。どれだけの思い、どんな考えをもっていても、いくら努力を積み重ねていても、相手や周りに発信しないと伝わらないことがあります。これまでの成長に自信をもち、積極的に自分自身を表現していけるようになってもらいたいです。そうすることで、自分のよさや自分という存在を再確認しながら自己有用感をもつことができ、しっかりと自立への道を歩んでいくものと考えます。

学校では、対話や体験学習、振り返りを重視した「ワクワク楽しい授業・イキイキ発見する授業・トコトン見つめる授業」を実践し、子供たちが率先して自己表現する姿を目指していきます。ご家庭でも、「本音を聴いてあげる」「家族の一員としての体験を増やしてあげる」「自分のルールづくりを励ます」など、思いを語る場、学びを生かせる場、計画と実践を積み上げる場を設定し、お子さんの表現力を高めていただきますようお願いします。

次の言葉は、ある高校のポスターに書かれた、コピーライター矢野弘樹氏のキャッチコピーです。

自分を出す。

自分を隠す。

苦しいのは どっちだろう？

どちらも苦しい時がありますし、個人差もあるでしょう。わたしは、自分を隠して生活するなんて耐えられないですし、自分をさらけ出して生きていく方が楽です。自分を表現する、本音を出し合ってつながっていくことは、けっこう素敵なことだと思のですが、相ノ木っ子のみんなはどうですか？

なお、今年度の教職員は下のようになっております。教職員一人一人の個性を生かしながら、子供たちのために一致団結して学校運営に取り組んでまいります。1年間ご支援とご協力をよろしくお願いします。

<今年度の教職員>

校 長	和田 英俊	教 頭	米山 節子	教 務 主 任	高野由香子
1年生担任	椎名美加子	2年生担任	瀧川 尚未	3年生担任	大橋 篤志
あすなろ級担任	高濱 久美	4年生担任	新谷 誠也	つばめ級担任	寺井 敏光
5年生担任	山林 久恭	6年生担任	北川 義人	通級指導教室	稲生 由佳
養 護 教 諭	飛弾 敬子	主任専門員	柏 正浩	英 語 専 科	長田 希
外国語指導助手	山田真由美	スクールカウンセラー	石坂 慎司	スクールソーシャルワーカー	板東由美子
業 務 士	吉田 雅子	助 手	上田 英子	助 手	澤田 修
業 務 士	種田 晴美				